



はたちの会 おめでとうございます！

「成人の日」の1月8日、サンガスタジアム京セラで亀岡市の「はたちの会」が開催されました。

対象者は888人。参加者は当日の寒さも吹き飛ばす程の晴れ晴れとした振り袖やスーツを身にまとい、顔をほころばせていました。今回のテーマは「きらめき～未来を照らす道しるべ～」として多様化する社会を受け入れ、未来に向かって幸せに生き抜いていく「道しるべ」となるようきらめいていたいという思いが込められているそうです。第一部の式典では「はたちが伝えたいこと」で馬路町の中川雄大さんも決意を述べておられました。第二部のつどいでは保育所、小中学校の担任の先生方が沢山お祝いに来ておられ、4年生の時の「1/2成人式」で自分宛てに書いた手紙、そして9年生の時に書いた「5年後の自分へ」という二通の手紙を受け取り、久々の恩師や友人との再会に歓喜しておられました。（堤 徳彦）



私は幼い頃より馬路町の人たちや家族に守られて育ち小豆をはじめ多くの美味しいものを産む風土に囲まれて無事に成人し社会人として新しいフェーズに突入出来る事を感謝申し上げます。これからは自分の人生においてもっと自立し自己責任を果たしていくことが求められます。またいつの日かふるさと馬路の優しい方々の役にたてる社会人になれるように努力していきたいと思います。 中川 雄大

まず、これまで支えてくれた家族に感謝をしています。まだまだ将来の見通しを立てられていないのが現状ですが、どんな時も支え、味方になってくれた方々のように人を支えることができる大人になりたいと考えています。また、これから先多くの困難があると思いますが挫けず自分に自信をもち進んでいきたいです。 堤 八寿季

今の人生を有意義に暮らして一日一日を大切にしていきたい。 三浦 心一

2月の国家試験に向けて頑張り、看護の道への一步を踏み出します。ポジティブな気持ちで健康な未来を切り拓くため、明るく前向きに歩いていきます。

勝井 華蓮

社会人としての自覚をもち、立派な大人になりたい。そして一日でも早く自立をし、家族や周りの人たちに恩返しをしたい。

河原 由衣

馬路北児童遊園

「馬路北児童遊園」が開設して早や3ヶ月が経過しました。開設準備にたずさわらせていただいた関係で、遊具の点検を兼ねてよく

様子を見に行きます。先日も行きましたら、子ども達と親子連れが、それぞれ、すべり台・ジャングルジム・スイング遊具・鉄棒にと元気に楽しく遊んでいる姿を見かけました。子ども達の広場、またコミュニケーションの場ができました事を大変ありがたく思っております。

遊具を用いた遊びは、体力や運動能力の向上、自発力や創造力を高め、心身の健やかな成長に欠かせません。青空の下どんどんご利用下さい。あつまれ～ 元気な馬路っ子

(中澤 和洋)



年末特別警戒

令和5年度年末特別警戒が12月28日(木)と29日(金)の2日間にわたり行われました。

初日には、馬路生涯学習センター前に「馬路分団」「自主防災会」「防犯推進委員」が整列し桂川市長、田村署長や田井団長の激励を受け、防火、防犯意識を高める機会となりました。馬路町自治会においても各区屯所への巡回と激励が中川自治会長の下行われました。寒い中、出動していただいた皆様、大変ご苦労様でした。（名倉 雅之）



【桂川市長の激励】

一人暮らし高齢者世帯へ歳末訪問

歳末助け合い事業の一環として、12月16日(土)に訪問希望のあった一人暮らし高齢者世帯に民生児童委員さんと女性自治会議員とでシクラメンのお花とおみかんをお届けしました。皆さんの明るい笑顔やお元氣な姿を見せていただき安心するとともに、こちら元氣をちょうだい、寒さにも関わらず心がほころんで温かくなったように思いました。時節柄、どうかより一層のご自愛のほどお祈りいたします。

(中澤 真理子)



消防出初式

令和6年の馬路町消防出初式が1月7日(日)午前7時より寒さ厳しい中、中川自治会長、浅田市議会議員、各区長、各種団体長のご臨席のもと執り行われました。馬路町の出初式の後、午前9時から亀岡市の出初式が従来通り挙行されましたが、能登半島地震が発生し甚大な被害がでているため、全員で犠牲になられた方々に黙とうを捧げました。その後、旧西友前でパレードがあり川勝卓朗分団長をはじめ分団員が凛々しい姿で行進されました。自主防災会からも自治会長以下5名が参加、その後南郷公園にてはしご車や各分団による一斉放水があり今年一年間の無災害を祈りました。（中澤 謹吾）

(令和5年度消防団員表彰)

京都府消防協会会長表彰	功績章	副団長	中野弘基
	精績章	分団長	川勝卓朗
亀岡市消防団長表彰		団員	人見宗樹
		団員	稲葉与一郎

町内内溝さらえ

2月4日(日)に毎年恒例の町内溝掃除が町民総出の下、町内各所で実施されました。

さらえられた土砂や汚泥等は軽トラックで次々と指定の場所に運び込まれて係員の誘導のもとで捨てられていきました。これで春先の準備は整い大小の川の流れを待ち望むばかりです。良き習慣を維持しつつ、また地域の新しい在り方を模索していける、生き甲斐のある馬路町であることを願います。（中川 和子）

